

彙 報

第 52 回日本語学会大会

早稲田大学において昭和 40 年 5 月 15 日公開講演会, 会員総会, 5 月 16 日研究発表会を開催。(研究発表会については本号 63 頁~77 頁参照)

1. 公開講演会:

アメリカ英語について	宮田 斎氏
ニュー・ギニア原住民の生活と言語	浅井恵倫氏

2. 会員総会:

1. 本会事務所の住居表示変更(84 頁参照)について報告があった。
2. 昭和 39 年度会計報告(別記)及び昭和 40・41 年度委員の選挙結果・事務分担に関する報告を承認した。

第 19 回九学会連合大会

昭和 40 年 5 月 22・23 両日上野公園国立博物館大講堂にて開催。本会からの発表者は下の通り。

明治以降における日本語の変化	松村 明氏
下北の国語教育	日野資純氏

昭和 40 年度第 1 回委員会

日 時: 昭和 40 年 4 月 5 日 13:00~16:30

場 所: 東京大学山上会議所

出席者: ()内は委任状受託数

亀井 孝, 北村 甫, 金田一春彦, 高津春繁(4), 服部四郎(7), 前田護郎,
三根谷徹, 村山七郎, 山本謙吾。 白紙委任状 3。委員総数 36 名。

議決事項:

1. 昭和 39 年度決算について別記の通り承認。
2. 昭和 40・41 年度新委員による委員長及び編集委員長選挙の開票を行い, 次いで新委員の事務分担を下記(80 頁)の如く決定。
3. 第 52 回本会大会の日程細目を決定, 研究発表会発表者を選定した。
4. 九学会連合担当の金田一委員より第 19 回九学会連合大会の日程及び本会からの発表者について報告があり, 次いで昭和 40 年度の共同課題について討議したが, 本会の態度は九学会連合理事会に一任することになった。
5. 第 11 回太平洋学術会議(1966)における Symposium, Divisional Meetings の実施案について, 三根谷委員より説明があった。

なお、同会議の言語学の Divisional Meetings の Organizer として泉井久之助氏を推薦することになった。

昭和40年度第2回委員会

日 時： 昭和40年5月15日 12:30~13:30

場 所： 早稲田大学大隈会館内完之荘

出席者： ()内は委任状受託数

浅井恵倫, 泉井久之助(1), 亀井 孝, 川本茂雄, 高津春繁(6), 河野六郎(1),
小林英夫, 佐藤 孝, 柴田 武, 関本 至, 長谷川松治, 服部四郎(3),
前田護郎, 村山七郎。 白紙委任状4。委員総数36名。

議決事項：

1. 第52回大会における委員の役割・分担を決定。
2. 本会事務所の住居表示変更について委員長より報告。
3. 『言語研究』第47号刊行遅延の実状について委員長より報告。
4. 会員総会の議題について審議した。
5. 昭和40年度秋季大会(第53回)について、長谷川委員より説明があり、次の通り決定した。
 - .1. 開催地は仙台とし、会場については更に研究の上決定する。
 - .2. 開催時期は10月。
 - .3. 大会運営委員長を小林淳男氏(本会評議員)に委嘱する。
6. 第8回国際人類学・民族学会議(1968年)の日本開催に関する同国際会議準備委員会の泉靖一幹事から、後援会結成後財界のみに寄付を仰ぐことなく、関係学会の会員もその寄付に参加することを関係学会としても呼びかけたらどうか、と云う趣旨の申入れについて、服部四郎委員より説明があり、これを了承した。

昭和40年度第3回委員会

日 時： 昭和40年7月12日 18:00~20:00

場 所： 学士会館本郷分館

出席者： ()内は委任状受託数

泉井久之助(5), 北村 甫, 高津春繁(7), 佐藤 孝, 徳永康元(2), 服部四郎(4),
前田護郎。 白紙委任状1。委員総数36名。

議決事項：

1. 日本学術会議第7期会員選挙に対する本会からの推薦候補者決定は、浅井恵倫氏が本会の推薦をうけることを辞退されたので、本会としては泉井久之助氏を推薦することになった。
2. 昭和40年度秋季大会(第53回、於東北学院大学)について。
 - .1. 開催日は、開催地側の事情を考慮して、10月30(土),31(日)両日とする。

2. 公開講演会 講演者 2 名の内 1 名は開催地側から推薦された大泉充郎氏（東北大学電気通信研究所教授）とし、他の 1 名は柴田武氏に依頼することに決定。
3. 昭和 41 年度の大会開催地について。
 1. 春季大会は東京大学教養学部において行う。
 2. 秋季大会は慣例により地方で開催することになったが、その開催地については泉井久之助氏に委任することになった。
4. 昭和 40 年度文部省刊行補助金については、文部省より指定してきた責任頁数 224 頁の年度内刊行が、本会の会計規模の現状からみて、まず不可能と思われるので、刊行計画を変更して、申請し直すことになった。
5. 今後の日本学術会議、重要な国際会議への本会代表派遣について、本会代表決定の手続き・規約に不備な点が多いので、整える必要があり、これについては更に時間をかけて充分審議することになった。

新しい規約を作成するに当たっての問題点は次の通り。

- (1) 被推薦希望の意志表示（事務局への申し出）の期限をあらかじめ設定しておくべきか否か。

例えば、国際会議の場合は前年の 10 月末、日本学術会議 会員選挙の場合は改選の年の 3 月末、など。

- (2) 本会代表として適格かどうかの審査をすべきか否か。
- (3) 当選に要する得票数について。

昭和 40 年度第 4 回委員会

日 時： 昭和 40 年 9 月 11 日 17:30~19:30

場 所： 学士会館本郷分館

出席者： ()内は委任状受託者

泉井久之助(2), 亀井 孝, 北村 甫, 高津春繁(8), 河野六郎, 小林英夫,
佐藤 孝, 柴田 武, 西田龍雄, 長谷川松治, 村山七郎。 委員総数 36 名。

議決事項：

1. 文部省刊行補助金再申請の結果(内定額 6 万円)について委員長から報告があり、昭和 40 年度は年間総頁数 160~180 頁の範囲で刊行することになった。
2. 第 53 回大会（東北学院大学）に関する日程細目を決定、研究発表会発表者を選定した。
3. 昭和 41 年度春季大会について。
 1. 前田護郎委員より東京大学教養学部での開催を 1 年延期してほしいとの申入れがあった旨、委員長より報告があったが、代案がないため、重ねて東京大学教養学部での開催を依頼することになった。
 2. その後前田委員より、代りの会場について責任をもつとの申出があり、万事一任することに決定した。

◇昭和40・41年度委員の事務分担

委員長：高津春繁。

編集委員長：服部四郎。

刊行委員

編集担当：泉井久之助，高津春繁，河野六郎，小林英夫，柴田 武，
徳永康元。

出版担当：北村 甫，佐藤 孝。

会計委員：柴田 武，野上素一。

九学会連合委員：金田一春彦。

文科系学会連合委員：木村彰一，前田護郎。

東洋学研究連絡委員：泉井久之助。

日本學術會議選舉管理會委員：木村彰一。

本会事務所の住居表示変更について

本会事務所の住所は東京大学の住居表示変更にともない、昭和40年4月1日付をもって、下記の如く変更されました。今後本会への御用は新表示により御連絡下さるようお願い致します。

記

(新表示) 東京都文京区本郷7丁目3番1号 東京大学文学部言語学研究室気付
 (旧表示) 東京都文京区本富士町1番地 東京大学文学部言語学研究室気付

昭和39年度決算

収 入		支 出	
前年度繰越金	7,954	刊行経費	381,370
会費(現金)	176,894	送 料	42,340
” (振替)	289,625	大会講演会費	49,540
雑誌売上金	44,230	通 信 費	32,730
寄 付 金	0	事務用品費	17,400
補 助 金	80,000	九学会連合費	5,000
利 息	2,847	文科系学会連合費	3,000
		雑 費	52,321
計	601,556	計	583,701

差引残高 17,855

第8回国際人類学民族学会議(1968・日本)の 準備進行状況について

1968年に日本で開催を予定されている第8回国際人類学民族学会議の諸準備は現在同会議準備委員会(須田昭義委員長)によって進行中である。昭和40年9月末

日まで、3回の委員会と7回の幹事会が開かれ、諸準備の立案、審議が行われて来たが、ほぼ下記のような案がまとまりつつあるので、報告しておく。

I 会 期 1968年9月3日(火)～10日(火) (あるいは1週間遅らせて9月10日～17日となるかも知れない)

II 会 場 開会式・一般分科会は東京、シンポジウム・閉会式は京都の予定。

III 参加費 未定。恐らく正会員15ドル、準会員10ドルとなると思われる。

IV エクスカーションおよび現地討議 会議前：北海道、日光、鎌倉など。会議後：京都、奈良、伊勢、志摩など。

V プログラム プログラム部会(白鳥芳郎主任)によって再三審議が繰返されて来ている。現在第5次案まで提出されているが、今後更に検討を加える予定である。特にシンポジウムのテーマは、重要な問題であるので、慎重に研究することになっている。紙面の関係で、プログラムを紹介するのを省略させて戴くが、第5次案については人類学雑誌第73巻3号雑報欄(pp. 111～113)に紹介しておいたので参照されたい。

VI 後援会 第8回国際人類学民族学会議の運営経費は、参加者1,300名(国内500名、国外800名)、会期8日間として概算3,500万円と見積られている。たとえ日本政府の了解が得られ、国費の支出が決定し、また UNESCO などからの援助が得られたとしても、なお2,000万円程度の不足が見込まれる。いきおい国内・外の財団・商社・個人から資金の援助を仰がねばならぬ。

現在、財界有力者の方々の御尽力で、第8回国際人類学民族学会議の諸準備・運営に要する費用を経済的に援助するために、同会議後援会を設置する動きが始まっている。会長・役員・会則などは未定であるが、ここに紹介して謝意を表しておく。

なお、この国際会議に直接・間接に参加する各学・協会に所属する会員としても、資金の負担を単に財界の方々の好意にのみ甘えるべきでなく、積極的にその一部を分担すべきであるとの声も強い。事実、現在の準備委員会の運営経費は一部財界人および準備委員会委員、ならびに各学・協会役員諸氏の醸金によってまかなわれている現状にある。後援会が発足した際には、各学・協会の会員の方々にも募金のお願いがあることと思う。この国際会議が日本の学界の責任のもとに開催され、その成果が有意義なものとなるためには、各学・協会の会員諸氏の御協力が無ければならぬと思われる。資金の分担に関しても御協力下さるよう準備委員会からもお願いしたい。

なお、現在第8回国際人類学民族学会議準備委員会事務局は、東京大学総合研究資料館内アンデス調査室(Tel. (812) 2111 内線 5470)にある。

(第8回国際人類学民族学会議・準備委員会・総務幹事 江藤盛治)